

令和6年度 東京都立武蔵村山高等学校 学校経営計画

1 目指す学校像

生徒一人一人の力（のびしろ）を最大限伸ばし、真に自立し社会で活躍できる人材を育成する。このため、全ての教育活動を通して、次のような資質・能力を持つ生徒を育成する。

- 「生きる力」の基盤である、**基本的生活習慣**
- 時を守り、場を清め、礼を正すことを軸に、自律した人間となるための、**規範意識**
- 自らが考え、選択し、取り組む、**主体性**
- 主体的に他者の意見を聴き、「知る」「学ぶ」「考える」「伝える」の基盤となる、**傾聴力**
- 物事の結論を導く過程において、「なぜ」「本当にそうなのか」と批判的に問うことで納得のいく結論に到達するための、**批判的思考力**
- 失敗を恐れず、高みを目指して自分の力を最大限伸ばそうと挑戦する、**可能性を信じる力**
- 様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となるための、**協働してより大きな成果を創造する力**

2 中期的目標と方策

目指す学校像を基に全教職員一丸となって取り組むために、以下4点を重点目標とする。

- 目標1 学力向上と希望進路の実現
- 目標2 活力ある学校生活の実現
- 目標3 地域等との連携と情報発信の充実
- 目標4 持続可能な学校づくりの実現

3 中期的目標に対する方策・数値目標

目標1 学力向上と希望進路の実現

(1) 生徒が主体的に取り組む授業の工夫改善

- ① 授業規律を遵守する。また、授業の充実を図るとともに教員の授業力向上を図り、インプットを基盤にアウトプットによるより深く考え、表現させる等、生徒の能動的な学びを促し、学習への意欲・関心を高める。
- ② 5教科すべての授業において「予習→授業→復習」や小テストの実施など家庭学習を前提とした授業づくりを通して、生徒が主体的に家庭での自主学習に取り組む習慣を付けさせる。
- ③ 全学年一人1台端末配備を踏まえ、ICT委員会を中心に、全教職員がICTを活用し、学びの質をより一層高め、学びを確実に保障する体制づくりを促進する。
- ④ 長期休業期間等における生徒の学力向上を目的とした補習・講習等の講座を強化する。
- ⑤ 新学習指導要領を踏まえた学校図書館の活用による授業改善、読書活動を推進する。

【数値目標】

- (1) ① 主体的・協働的な深い学びに向け、教科横断的な相互授業観察や若手教員育成の研究授業、他校の模範授業、指導教諭による授業支援制度に年3回以上参加
- (1) ③ 全教科で生徒一人1台端末を計画的・効果的に活用
- (1) ④ 年間を通じた夏季講習、補習等の講座（開講）30講座以上

(2) 将来に向けたキャリア意識を醸成し、生徒の進路希望を実現

- ① 進路指導部を軸に3年間を見通した一貫性のあるキャリア教育を推進する。進路指導部主導となる組織体制強化のため、学年の進路プロパーを配置する。
- ② 早い段階から生徒の進路意識を高める取組として、進路希望調査等のデータを活用した面談の実施や、

第1学年でスキルアップ推進校事業を活用した職場体験（ジョブキャンプ）を実施する。

- ③ 大学進学については、計画的な進路指導を通して生徒の進路に対する意識向上を図るとともに、生徒一人一人の状況を全教員で共有し個に応じた支援を進め、総合型や一般選抜を受験する生徒の希望進路を実現する。一般大学受験を志望する生徒への指導については、模試結果やスタディサポート結果等を教員が分析し、そのデータを生かした指導を推進する。このため、模試の分析会、生徒集会、教務部と連携した長期休業中等の講習、面接、ケース会議等、本取組のスキームを立て、計画的・組織的な指導を確実に実施する。
- ④ 保護者会や進路講話等の進路行事において積極的な情報発信をする。
- ⑤ スキルアップ推進校指定によるデジタルスキル講座を開講し、情報の授業と連携した基礎的デジタルスキルの習得を支援する。また、同推進校の指定による受験生対象の文書作成も有効に活用する。

【数値目標】

- (2) ② 年2回以上の模試分析会を実施
- (2) ③ GMARCH以上の合格者3名以上、日東駒専の合格者5名以上

(3) 豊かな国際感覚の育成（英語教育推進）

- ① 実用英語技能検定を第1・2学年全員対象に実施し、卒業までに3級以上取得を目標に取り組みさせる。英語技能の強化とともに大学受験に必要な資格取得を目指す。また、スキルアップ推進校指定によるグローバルスキル講座を実施し検定合格率を高める。
- ② 第2学年に英語校外研修を実施し、使える英語を体験させるとともに、検定や模試受験への取組を加速させる。

【数値目標】

- (3) ① 実用英語検定3級以上1年生30%、2年生50% 準2級以上全学年10人以上

目標2 活力ある学校生活の実現

(4) 特別活動等の充実に向けた指導の推進

- ① 生徒の主体的な活動を促す指導を通じて、生徒会活動や学校行事、部活動の活性化を図り、生徒の達成感、成就感を高めるとともに、帰属意識を向上させる。
- ② 部活動では学習とのメリハリをつけさせることを前提に、部員同士の連帯感を深め、互いに切磋琢磨し、高め合う姿勢や態度を育む。
- ③ 活動実績・成果を学校全体で称賛し、部活動全体の活性化を図るとともに、他の生徒の励みとする。

【数値目標】

- (4) ① 部活動加入率95%、生徒の部活動及び行事満足度80%

(5) 基本的生活習慣の確立と規範意識を醸成する指導を継続

- ① 授業規律をはじめ、基本的な生活習慣や挨拶・ルール・マナーの徹底を呼びかけ、生徒の規範意識の向上を図るとともに、改訂した累積指導を全教職員共通理解のもと、丁寧に組織的な指導を推進する。
- ② 教職員あげて一層の生徒理解に努めるとともに、好ましい人間関係の構築を支援する。昨年度課題である体罰の根絶及びいじめについては、未然防止・早期発見・早期対応、自他の生命や人権尊重の教育を推進する。また、SNSの適正な利用に係る指導を強化し、情報モラルを高める。
- ③ 交通ルール遵守と交通マナーについて、生徒が危険を予測し回避することを考え行動できる指導を一層強化し、事故防止に努める。

【数値目標】

- (5) ① 累積指導100人以下、複数回指導20回以下
- (5) ② 体罰・いじめ・生命に関わる重大事故0件

(6) 教育相談の充実

- ① 校内研修等を通じて全教職員の生徒理解・対応力を向上する。
- ② 心身の健康づくりに向けた指導を充実させるために、各学年及びスクールカウンセラーと連携し、特

別支援教育コーディネーターを中心として、いじめ、不登校中途退学、心の健康等、障害理解等を含め関係機関と連携して組織的教育相談機能の充実を図る。

【数値目標】

- (6) ① 校内研修 2 回以上
- (6) ② 教育相談委員会 10 回以上

目標 3 地域等との連携と情報発信の充実

(7) **地域連携**

- ① 武蔵村山五中区コミュニティスクールや武蔵村山市立第一中学校区教育推進協議会の行事や、近隣小中学校との合同部活動等に積極的に参加し、地域とともに様々な教育活動を連携して推進する。
- ② 地域の小・中学校、特別支援学校及び保育園、地域諸団体との連携を深め、学校開放事業・公開講座を通じ地域に根ざし地域に貢献する学校づくりを推進する。

【数値目標】

- (7) ② 地域行事・部活動等への参加 7 件以上、五中サミット年 2 回

(8) **教育活動に関する情報発信と募集対策のための広報活動を強化**

- ① ホームページを活用した本校の教育活動に関する情報を随時発信するなど広報活動を推進する。
- ② 夏季休業中に近隣中学校や塾を直接訪問し、本校の特色ある教育活動の PR とその成果を積極的に発信する。
- ③ 中学生とその保護者の視点やニーズを加味した募集対策の工夫・充実を図り、全教職員の連携のもとに授業公開、学校説明会、部活動体験等を計画的に実施し、入学したい学校、受検したい学校とする。また、説明会や母校訪問など生徒が主体的に取り組む機会を多く設定する。

【数値目標】

- (8) ① 学校行事、部活動等の情報発信、ホームページ掲載月 10 回以上
- (8) ②③ 推薦；応募倍率 3 倍以上、学力検査（一次）；応募倍率 1.2 倍以上

目標 4 持続可能な学校づくりの実現

(9) **経営企画室と分掌・教科等と連携し効率的な教育活動を推進**

- ① 経営企画室が中心となり、学校の課題を解決するために、迅速に対応することを努めるとともに、計画的かつ効果的な予算の配分と適正な執行を行う。

【数値目標】

- (9) ① センター執行率 60%以上

(10) **ライフ・ワーク・バランスの推進**

- ① 欠席連絡や調査回答など学校と保護者との連絡手段のデジタル化を推進する。
- ② 教育・行政職員との連携を一層強化して業務の適正な分担と効率的な組織運営を図る。
- ③ 各分掌主任を中心とした組織運営を実現し、業務の効率化と円滑な報告・連絡・相談を通じて必要な情報が教職員間で共有される体制づくりを推進する。
- ④ 各種会議は ICT を利活用及び上限時間を設定し時間短縮・業務の効率化を図る。
- ⑤ 職員室、教科準備室の整理整頓の励行とルールの設定による環境美化と情報セキュリティの強化を図る。

(11) **創立 50 周年に向けた取組の推進**

- ① 大きな節目を迎えるため、周年行事委員会を主軸に式典・記念行事の実施及び記念誌を作成する。